

第三者評価結果（乳児院）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	a
②	子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	b
③	子どもの発達を支援する環境を整えている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○担当制を取り、マンツーマンで過ごす時間帯を意識的に作り、様々な生活体験を通して愛着関係を築き、情緒の安定を図っている。△子どもの豊かな生活を保障する支援にこれで十分というものはない、との考え方のもと、今後更に良いものにしていくという意思を感じた。○子どもの生活用品の個別化が図られ、幅広い月齢に合わせて安心・安全・快適かつ自由に遊べる環境作りがなされている。○設備環境では階段には通常の手すりに加えて子ども用の手すりが取り付けられ、床面には滑り止めが敷かれてある。また居室には床暖房が施され、更に随所にカーテンを使用し、快適さを保つ工夫がある。そして衣類履物、玩具等が整頓・収納され、いつでも使える状態になっている。○グループケアにおいて情報共有を必要とすることがあり、ケースカンファレンスを通して異なる職種の職員と意見交換を行い、関わりを振り返っている。皆で関わり合いながら子どもの発達を支援している。</p>		

(2) 食生活		第三者 評価結果
①	乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a
②	離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	b
③	食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	b
④	栄養管理に十分な注意を払っている。	b
(3) 衣生活		
①	気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
(4) 睡眠環境等		
①	乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	a
②	快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	a
③	快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
(5) 発達段階に応じた支援		
①	乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
②	発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○育児経験のない職員でも研修により、自信を持って適切な授乳を行っている。△食べるのに時間のかかる子や食の細い子に対して、どう支援したら良いか、常に悩み、相談しながら対応している。△大人と一緒に食事を作ったり、職員も一緒に皆で食事をしたり、食べに出かける等いつもと違う雰囲気を演出する等、食生活に変化を持たせ、様々な食の体験を増やすことで食べたいもの、好きなものが増えるような工夫について、今後とも取り組みを深めていただきたい。○栄養士と保育士の連携体制ができており、子どもの食欲不振や体調不良には素早く対応している。○現在、アレルギー疾患を抱えている子はいないが、食器にシールを貼る等して間違いがないように対処できる体制がある。○活動しやすく、洗濯しやすい衣類が用意されている。子どもの好みも大切にされ、自分で好みの衣類を選ぶこともできる。○子どもたち全員が眠りにつくまで職員が付き添い、定期的に観察、確認し、記録している。肌の弱い子供にはガーゼ素材の毛布を使う等細かい気配りを行っている。○子どもたちが入浴しやすいように浴槽を浅くしたり、洗い場の床面をコルク張りしたり、玩具を準備したり等安全に楽しく入浴できるよう配慮している。○排泄が上手にできたことを喜び、褒めることで排泄への意識を高めている。○おもちゃの種類、数が豊富で子どもの発達段階に応じて楽しく遊ぶことができる。一般家庭で日常的に経験していることは何かと考え、生活の中に取り入れようと努力している。また小さな失敗体験をあえて回避せず、経験させることにより危険に対処する能力を育もうとしている。</p>		

(6) 健康と安全		第三者 評価結果
①	一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
②	病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
③	感染症などへの予防策を講じている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>○健康マニュアルが整備され、健康チェックノートは健康状態や薬状況が一目で把握できる。担当保育士と看護師との連携のもと、健診や受診を適切に行っている。初めて食べる食材の時は経過観察を行っている。○嘱託医との連携体制が整っており、気軽に相談ができ、往診や夜間の相談にもすぐに対処してもらっている。○緊急事態を想定したマニュアルに基づき、毎月定期的な訓練を実施している。乳幼児用に特化した救急救命法の講習を消防署の指導のもと、実施している。テレビ新聞等で乳幼児の事故に関する報道があると、すぐに職員に伝達し、注意を喚起する仕組みがある。</p>		

(7) 心理的ケア	第三者 評価結果
① 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) △平成26年4月より心理職員が配置されるとのことで、保護者支援における心理的なケアについて深めていき、また心理支援プログラムの作成に向けた取り組みに期待したい。	

(8) 継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れを行うに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	a
③ 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) ○子どもにとって慣れ親しんだ人間関係や生活環境が変わることの大きさを考え、次に繋げていくために丁寧な引き継ぎ、共通の意識が持てるような取り組みを重視している。関係機関とネットワークを密にし、家庭復帰や家庭復帰後の支援を行っている。○家庭引き取りにあたって、家庭復帰を妨げている問題について子ども相談センターと連絡を取り、段階的に打ち合わせを重ねながら行っている。また子どもが安全に保護者のもとに戻れる状態であるかアセスメントのため家庭訪問も行っている。親子の絆を取り戻す段階として、養育支援室で時間をかけて親子の触れ合いの機会を設定している。△退所後は近隣の市町村、子ども相談センター等の支援関係団体等との関わりを通して子どもの支援を継続しているが、退所後の所在不明の場合や、保護者の様々な状況で、支援が困難な場合がある。	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) ○面会が少ない保護者には写真を添えて定期的に子どもの近況を書いた“たより”を発送し、親子の関係が継続するよう働きかけを行っている。子どもの笑顔が保護者を力づけるのではないかと想像できる。△施設長、基幹職員、家庭支援専門相談員、主任、担当保育士で家庭支援チームを作り、家族との調整を行っている。○面会時には職員も同席し、面会の様子や要望等記録に残している。また家庭に一時帰宅して戻ってきた時の子どもの様子や変化についても記録に残している。△アセスメントシートが十分でないとの反省から書式を統一した。○家庭支援について担当者、施設長、家庭支援専門相談員、法人内心理職員、里親支援専門相談員で月2回の会議を行っている。	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b

③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
○アセスメントシートについて年4回の見直しを行ってきたが、小さな変化にも対応できるように毎月見直すこととし、書式変更を行った。統一された手順により子ども一人ひとりの具体的なニーズを把握している。○自立支援計画は、アセスメント様式、健康記録、家庭支援の記録等で把握されたニーズを基に、グループ会議(施設長、主任、家庭支援専門相談員、リーダー、看護師、調理員等)で課題分析や目標設定を行い、策定されている。○記録の管理についてはパソコンネットワークシステムが構築され、職員がいつでもアクセスできるようになっている。また子どもや保護者などの状況についての情報が申し送り、各種連絡や会議録で情報を共有化する仕組みができています。▲文書管理のマニュアルは整備されているが、廃棄について明文化されていないので不十分である。今後マニュアルを検討し、整備を進め職員周知を徹底されたい。○個人情報保護法、パソコンデータの管理については研修が実施され、職員に周知されている。	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a
(2) 保護者の意向への配慮	
① 保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
○理念、基本方針の中で子どもを尊重した養育・支援の基本姿勢について明文化され、養育・支援のマニュアルにも反映されている。各種職員会議、学習会やケースカンファレンスで読み合わせを行い、周知し、理解を深めている。▲保護者の意向については日々確認していけるよう面会記録の中で意向を記載する欄を設け、その都度、把握できるようにしている。しかし保護者の意向を把握するという観点からの保護者の意向調査の実施、分析、検討という一連の過程からなる仕組みはない。現状では来院する保護者が少なく、保護者アンケートの回収率も低いものと予想されるが、その仕組み作りについて検討されたい。	

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて保護者等にわかりやすく説明している。	a
(4) 保護者が意見や苦情を述べやすい環境	
① 保護者が相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 保護者等からの意見等に対して迅速に対応している。	a
(5) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
○入所時には保護者に養育・支援の内容をわかりやすい資料を使い、説明している。ホームページや定期通信で広報を行っている。▲現在、相談スペースは設置していないので、今後相談しやすいスペースを確保できるよう環境整備について検討されたい。○子どもの表情や様子を観察し、気持ちを汲み取るよう努めている。十分に意思表示できない発達段階における子どもに対して保育者が代弁者として意見が言えるよう努めている。○苦情解決の仕組み(苦情受付、記録、報告、対応策の検討、解決結果の公表、対応マニュアルの整備、見直し)が確立している。○体罰を取り上げるといふより、子どもが不快に感じるということについてその子の心の状態を客観的に知ろうとする努力をしたり、子どもとの関わりの中で気になること等を話し合ったり、相談できる雰囲気があり、暴言や虐待につながるような皆で関わるようにしている。△建物構造上に密室・死角等はあるが、不適切な関わり防止のためヒヤリハット、インシアクシ(インシデント・アクシデント)レポート、関与記録等を作成し、会議で不適切な関わりについて取り上げ、振り返りを行っている。○施設独自の被措置児童虐待マニュアルがあり、研修会を実施し、理解を深めている。▲虐待に関して第三者の意見聴取の仕組みや公益通報者の保護を行う仕組みを整備されたい。	

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) ○子どもの安全確保のため、緊急時の各種マニュアルや防災マニュアルが整備され、感染症や事故等、緊急時の事例について会議で分析し、事故防止に努めている。防災訓練、避難訓練等を行い、災害に備えている。昨今、感染症が全国的に流行しているため各種予防や発生時の手順について職員周知の徹底に努めている。</p>		

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) ○児童相談所や関係機関との連携を重視し、子どもの状況報告と情報共有を行い、課題解決に向けて協働して取り組んでいる。また地域の夏祭り・秋祭りへの参加、地域家族キャンプ、施設行事での地域との交流、区民運動会等、地域行事への施設からの参加、消防団活動等を通して地域に根ざした取り組みを行っている。▲培った実践経験、知識、知恵等を地域の子育て支援に提供していく方法をこれからの課題として研究していただきたい。△乳児院は県内2か所であることから、地域ニーズは広域ニーズとして捉えている。地域の里親専門相談員を配置し、地域の里親支援に取り組んでいる。</p>		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上に努めている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

○事業計画の中で職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。また新人研修や各種場面における詳細な研修マニュアルが整備され、施設内研修を充実させている。外部研修にも積極的に参加し、復命研修や振り返りを行っている。外部から講師を招き、法人内施設と合同で研修を行っている。職員個別の研修ファイル(OJT、スーパーバイズ、研修記録)がある。△研修成果に関する検証までは行われていないので検証に向けた具体的な取り組みを検討している。▲職員の研修計画が策定されているが、職員一人ひとりに着目して能力アセスメントを行い、実施し、その職員の研修ニーズに対応した個別研修計画の実施に向けた取り組みに期待する。

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		第三者 評価結果
①	法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④	運営理念や基本方針を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤	事業計画を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		
○法人の理念を踏まえて施設の運営方針、基本方針、職員の心得が明文化されている。理念、基本方針等は事業計画書に記載され、年度当初に職員に配付し、説明をしている。またパンフレットに記載し、保護者の状況に合わせて説明を行っている。○中・長期計画及び事業計画が策定されている。計画の策定にあたっては、毎月の各会議、全体会議で職員参画のもとに振り返りを行うとともに評価・見直しが行われ、次年度計画に反映されている。保護者には事業計画の要旨を読んでもらえるように、上質な用紙を用いて印刷し、配布して保護者の状況に合わせて説明をしている。来所できない方には郵送をしている。		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者 評価結果
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③	施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④	施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4) 経営状況の把握		
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③	外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

○施設長は子育て支援についてのプロ意識と情熱を持ち、リーダーとしての責任と役割について機会あるごとに職員に表明している。また職務分掌表において施設長及び各職員の役割が明記されている。法令遵守に関する研修に積極的に参加し、職員会議等で職員周知を図っている。△子育て支援は社会的使命として必要なものであるという考えのもと、経営的観点からのアプローチは馴染みにくいという思いを持って経営にあたっているが、経営や業務の効率化については、周辺業務の効率化や経費の節減に取り組んでいる。職員も手厚く配置し、働きやすい環境について常々検討を行っている。○全国乳児福祉協議会、その他各種会議に出席し、福祉動向について情報収集を行い、運営について課題を把握している。

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	b

(6) 実習生の受入れ

① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a
---	---

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

○必要な人材や人材育成に関する基本的な考え方が事業計画書に明記されている。▲OJTの取り組みや職員面接を通じた評価体制はあるが、客観的な基準に基づいた人事考課マニュアルが整備されていないので、人事考課は現在行われていない。今後、客観的な基準に基づく人事考課制度、目標管理制度等の導入に向けた取り組みに期待する。▲施設特性から子どもの急変等による勤務変更が多い職場であるが、職員は養育の基本を良く理解し、前向きに状況に応じた勤務をしている。有給休暇の消化率や労働状況の客観的なデータを把握し、課題分析、改善を行う仕組みの整備について検討されたい。○実習生の受入れについてはマニュアルが整備され、事前オリエンテーション、実習指導やカンファレンス、振り返り等の一連の過程ができています。

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b

(8) 評価と改善の取組

① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

○標準的な実施方法については各場面における各種マニュアルが整備され、職員会議等において職員参画のもと、見直し、検証を行う仕組みができています。マニュアルについても時代や状況に合わせて変化させるものであり、これでパーフェクトというものはないという思いがある。課題は常にあるので改善に向けて取り組む姿勢を今後とも強く持ち続けて行こうと考えているので、今後とも継続して取り組んでいただくよう期待する。△第三者評価を受ける際、職員皆が自己評価を行い、施設長や職員間で課題の共有化が図られてきたところである。今後、評価結果を踏まえて職員の参画の下で第三者評価の改善策や改善実施計画を立て、実施するというPDCAサイクルに沿った評価と改善の仕組みを構築されるよう期待する。